☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

（別紙４）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　　平成２１年１月８日

【評価実施概要】

事業所番号	0870300852		
法人名	池田観光開発株式会社		
事業所名	鶴沼の里（１）		
所在地	茨城県土浦市神立東２丁目21-22 （電　話）029-834-0011		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町１９１８　　茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年8月19日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】（平成20年7月1日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成15年9月16日	
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計　27　人
職員数　27	27 人	常勤　24人，非常勤　3人，常勤換算　21.7人

（２）建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての　１～２　階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	35,000 円		その他の経費（月額）	20,000 円
敷　　金	有（　250,000円　）			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	―
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,200　円			

（４）利用者の概要（平成20年7月1日現在）

利用者人数	27 名	男性　5　名	女性　22　名
要介護１	4	要介護２	8
要介護３	10	要介護４	3
要介護５	2	要支援２	
年齢	平均　84.7　歳	最低　66　歳	最高　95　歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	神立病院　　筑波病院　　川島医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は利用者に家族同様に接し、利用者は温かい雰囲気の中で穏やかに過ごしている。

利用者と職員の会議を開催しているユニットもあったり、介護相談員を受け入れるなど利用者の暮らしやすさを大切にしている。

散歩やドライブなど戸外へ出かける機会を多くつくるとともに、リハビリ体操を日常的に行い機能低下予防に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 運営推進会議の定期的な開催や利用者の入浴回数は改善している。 前々回からの課題である非常口の具体的な改善や職員を育てる取り組みまでには至っていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価は一部の職員で作成しており、全職員で取り組み理解するまでには至っていないので、全職員で自己評価に取り組むとともに、振り返りや気付きを活かしサービスの質の向上に取り組むことが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） ２ヶ月に１回運営推進会議を開催し、意見等をサービスに活かしている。 回を重ねるごとに充実した会議となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 家族から出された意見や要望は職員で話し合い、内容を記録するとともに運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地域の小学校の運動会に参加するほか、散歩時に地域の人々と挨拶を交わしている。 演芸等のボランティアが来訪するなど、地域の人々と交流している。

2．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念のひとつに「社会交流・地域の一員として暮らすことをめざす」を掲げ、笑顔と温かい心で一人ひとりを大切にするケアに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を理解するとともに事務室に掲示し実践している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校の運動会に参加するほか、散歩時に地域の人々と挨拶を交わしている。 演芸等のボランティアが来訪するなど、地域の人々と交流している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は一部の職員で作成しており、全職員で取り組み理解するまでには至っていない。	○	全職員で自己評価に取り組むとともに、振返りや気付きを活かしサービスの質の向上に取り組むことが望まれる。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２ヶ月に１回運営推進会議を開催し、意見等をサービスに活かしている。 回を重ねるごとに充実した会議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月１回介護相談員が来訪し、居室の空き状況の確認やボランティアの紹介を依頼するなど、市町村との連携によりサービスの質の向上に努めている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子や金銭管理、職員の異動等を家族に定期的に報告するとともに、状況に応じて電話での報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から出された意見や要望は職員で話し合い、内容を記録するとともに運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は必要最小限に抑え、引継ぎ期間をおき利用者へのダメージが少なくなるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	３年以上の勤務職員には実践者研修を受講できる体制があるが、段階に応じて研修が受講できる体制づくりまでには至っていない。	○	職員の段階に応じた研修受講の機会を確保するとともに、全職員がスキルアップできる研修計画の作成を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に加入しているが、同業者と交流するまでには至っていない。	○	同業者と交流する機会をもち、意見交換や相互訪問を通じてサービスの質の向上に活かすことが望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者にホームを見学してもらい、他の利用者と一緒に１日を過ごすことにより雰囲気に馴染んでもらったり、家族等と相談して納得のうえ利用を開始している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の得意なことを教えてもらったり、日常的な生活の知恵を学ぶなど家族のように喜怒哀楽を共にして互いに支えあっている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々一緒に過ごしながら利用者の思いや希望の把握に努めている。 把握が困難な場合は家族から情報を得ている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らせるよう、利用者や家族等必要な関係者と課題について話し合い、意見等を介護計画作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に短期・長期の期間を定め見直している。 状態に変化があった場合は、期間前でも関係者で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況・要望に応じ、通院や買物など必要な支援を柔軟にしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月２回の往診を受けるとともに協力医療機関と２４時間連絡が取れる体制を整え、利用者や家族が安心して適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた話し合いをしているが、対応方針の周知やマニュアルを作成するまでには至っていない。	○	利用者や家族、かかりつけ医、職員など関係者全員で方針を共有するとともに、確認書や対応マニュアルの作成が望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にした支援をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にし、希望にそった過ごし方ができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに配慮した献立や調理方法を工夫して楽しい食事になるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮し、希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、習字、絵画など持てる力を活かした役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に数回近隣に散歩やドライブなどで戸外に出かけられるよう支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックになっているが、管理者や職員は鍵をかけることの弊害を理解し、利用者の状態に応じてオートロックを解除している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に１回消防署の指導のもと避難訓練を実施するとともに、消防署との直通電話を設置しているが、災害に備えた非常食等の備蓄や地域の人々の協力を得る働きかけをするまでには至っていない。	○	災害に備え非常食等の備蓄や地域の人々から協力が得られるよう運営推進会議等で働きかけることが望まれる。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を確認しているが、記録するまでには至っていない。	○	献立作成に専門家のアドバイスを受けたり、摂取量の記録をするなどの工夫を期待する。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔に保たれ、温度計や湿度計を設置するとともに音や光にも配慮し、過ごしやすい空間づくりをしている。 ガラス張りの事務室から利用者が見え、見守りに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、家族の写真や趣味の絵、花を飾り安心して過ごせるよう工夫している。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。